展示室２

宮崎の美術 －特集 益田玉城

令和7年度 宮崎県立美術館 コレクション展第１期
令和7年 4月12日 ～ 7月 8日

明治期以降、日本の美術は急激な西洋化の波にさらされます。日本の洋画家たちは、西洋画の写実表現や遠近法などを取り入れ、独自の表現を求めて模索を続けました。このような状況下で、国が主催する文展が創設されます。本県の洋画家では、西都市出身の塩月桃甫が、大正5（1916）年に文展入選を果たしました。また、都城市を代表する山田新一は、大正14（1925）年に文展を前身とする帝展に初入選し、中央画壇で活躍しました。一方、伝統的な日本画の世界においても、西洋画の要素や特徴を取り入れた新しい「日本画」への取り組みが進みました。本県を代表する日本画家として、文展で受賞を重ねるなど日本画界をリードした都城市出身の山内多門、同じく都城出身で、大正4（1915）年の文展において初入選で褒状を受けた益田玉城が挙げられます。

ここでは、これら宮崎県を代表する画家たちの作品を中心に紹介するとともに、没後70年を迎えた益田玉城の美人画にスポットを当てた特集展示も行います。本県出身やゆかりの作家による多彩な作品をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	伊達　孝太郎	1878～1964	少女	1903-09（明治36-42）	61.8×48.0	素描
2	岩尾　信夫	1908～1991	ジーンズの女	1975（昭和50）	91.0×65.3	水彩
3	塩月　桃甫	1886～1954	折生迫	1952（昭和27）	24.2×33.2	油彩
4	塩月　桃甫	1886～1954	花 1	1950（昭和25）	22.8×15.9	油彩
5	塩月　桃甫	1886～1954	フグ	1953（昭和28）	37.7×45.3	油彩
6	山田　新一	1899～1991	婦人像	1947（昭和22）	45.3×37.8	油彩
7	山田　新一	1899～1991	風景	不明	45.6×53.2	油彩
8	川越　篤	1892～1965	日南海岸	1938（昭和13）	90.7×116.7	油彩
9	坂口　伊佐男	1923～2003	麓	1963（昭和38）	66.5×99.0	水彩
10	河村　春夫	1904頃～1958	題不明	不明	40.5×49.5	日本画
11	中原　南溪	1830～1897	山水	不明	108.6×41.3	水墨
12	山内　多門	1878～1932	秋山朝霧之図	1910（明治43）	145.3×85.3	日本画
13	山内　多門	1878～1932	水墨山水	不明	122.5×34.9	水墨
14	宅間　古峰	1911～1996	宵	1958（昭和33）	172.4×181.5	日本画
15	益田　玉城	1881～1955	落椿之図	1909（明治42）頃	199.5×70.3	日本画
16	益田　玉城	1881～1955	艶美	1928（昭和3）	115.2×41.3	日本画
17	益田　玉城	1881～1955	錦帯橋　※	1937（昭和12）頃	右隻172.4×417.8 左隻172.0×418.9	日本画
18	益田　玉城	1881～1955	題不明	不明	128.8×42.0	日本画
19	益田　玉城	1881～1955	美人図	不明	右扇133.2×50.3 左扇133.1×50.3	日本画

※ No.17 益田玉城「錦帯橋」：前期（5月25日まで）は左隻、後期（5月27日から）は右隻を展示します。